



いずみ野

令和2年8月31日

校長 齋藤 敦子

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izumino/>

学校教育目標 「自分が好き 友達が好き 学校が好き このまちが好き」
～心豊かに学び合い、ともにによりよく生きようとする子～

優しさや ときめく風を 吹かせて

校長 齋藤 敦子

夏休みが終わり、前期後半がスタートして2週間が過ぎました。夏休み明けの学校ではコスモスの花やセミが、「見て見て！」とばかりに待っていました。子どもたちに夏休みの様子を尋ねると家の中で遊びを工夫して過ごした子、勉強をがんばった子、キャンプを体験した子、車で出かけた子など、様々な話を聞かせてくれました。やはり学校には子どもの声が一番です。おかげさまで大きな事件・事故もなく、子どもたちと再会することができてほっとしております。

夏野菜の畑は正美さんやボランティアの皆様のご指導をいただき、昨年以上の収穫量で全家庭におすそ分けをすることができました。田んぼは梅雨の長雨が心配されましたが、見事に花を咲かせ、義一さん曰く「稲の出産」が無事終わり、稲穂がふっくらと順調に育っています。田んぼでGOの皆様、猛暑の中での水管理をありがとうございました。後期からは子どもたちの活動へとつないでいきたいと思えます。

本校は実に多くのボランティアや地域の方々が来校され、直接子どもたちの学習支援にかかわってくださるという、誠にありがたい環境にあります（コロナ禍に関係なく）。そのたくさんの方々のおかげで、子どもたちの思いやダイナミックな活動が実現され、自信につながっていきます。子どもにかかわる全ての人は、ともに学校をつくっていく大切な仲間であると感じています。

さて、先日次のような場面に出会いました。朝から日差しが強い日でした。低学年の男の子がビニル袋に一匹のセミを持ってきましたが、頭をうな垂れて登校してきました。「どうしたの。」と尋ねると「家の近くの木から落ちていたから拾った。」「でも、周りの子に早く木に戻した方がいいと言われたんだ。」としょんぼりしていました。どうやらしばらくは眺めていたいようで、なかなか教室に入ることができません。そこに2人の6年生が通りがかり、その様子を見てこう言いました。「セミは一日か二日なら生きているから大丈夫だよ。」と、その一言でその子は、迎えに来た担任と一緒に安心して教室に入ることができました。一匹のセミを巡って、それぞれの考えは多様で価値のある言動です。セミはその日のうちに、その子の家の近くの木に戻され、命をつないでいました。

暑さに負けずに登下校する子どもに…、セミや生き物を大事にする会話に…、たくましく育つ田んぼの稲穂や野菜に…、図書ボランティア作のパネルシアター「おおきな おいも」他2作に…、いずみ野小学校やまちには優しさやときめきの風が吹いていました。

自分から周りに風を吹かせていく、それが優しさであれば優しくされた人は、必ずだれかに優しい風を吹かせることができる。その優しさが連鎖し広がり、人と人との関係が優しさやときめきに包まれていく。自ら吹かせる風は、穏やかで温かい教室、地域をつくっていくに違いないと信じています。

まだまだ、暑さは続きますが「子どもたちを 第一に」、マスクの着脱・換気・3密への対応を継続し、感染拡大防止と教育活動へのさらなる充実に努めてまいります。



給食『初めての配膳』
このくらいかな？